

クレルモン＝フェラン市視察報告書
(概要版)

政策部政策推進課

2019年9月

クレルモン＝フェラン市視察報告書

1 目的

ミシュラン都市の国際ネットワークは、ミシュランの生産拠点または開発拠点を有する自治体を主な対象とし「各自治体の経済的・社会的・文化的な背景を尊重しながら持続可能な発展に貢献する。」などの趣旨を掲げて2017年に設立された国際的な都市間連携団体である。本市は、ミシュラン本社があるクレルモン＝フェラン市と環境が似ている事などから、ミシュランジャパンからの参加要請を受け、当該団体の趣旨に賛同したことから、2019年度予算において議会の議決を経て関係予算を措置するなど加盟に向けた調整を行っている。

今回の訪問は、今後の活動に向けた調整、具体的な連携強化を図るため、ミシュラン及び事務局を務めるクレルモン＝フェラン市を訪問し、ビアンキ市長との面談等を行ったものである。

2 目的地

ミシュラン本社（フランス・クレルモン＝フェラン市内）
クレルモン＝フェラン市

3 日程

2019年6月24日（月）移動～6月27日（木）帰国

※6月21日～23日は、イタリア・オルビエート市でスローシティ国際会議に出席した。

4 参加者

(1) 前橋市

山本市長、片貝秘書課長、草野政策推進課長、原田文化国際課長

(2) 前橋市議会議員（私費参加）

岡田修一議員、豊島議員、林議員

(3) その他

長澤秀一外務省在リヨン領事事務所長、ジェトロ笠原対日投資ディレクター、上毛新聞社臂記者

5 ミシュラン都市国際ネットワークの概要

(1) 基本理念 (概要)

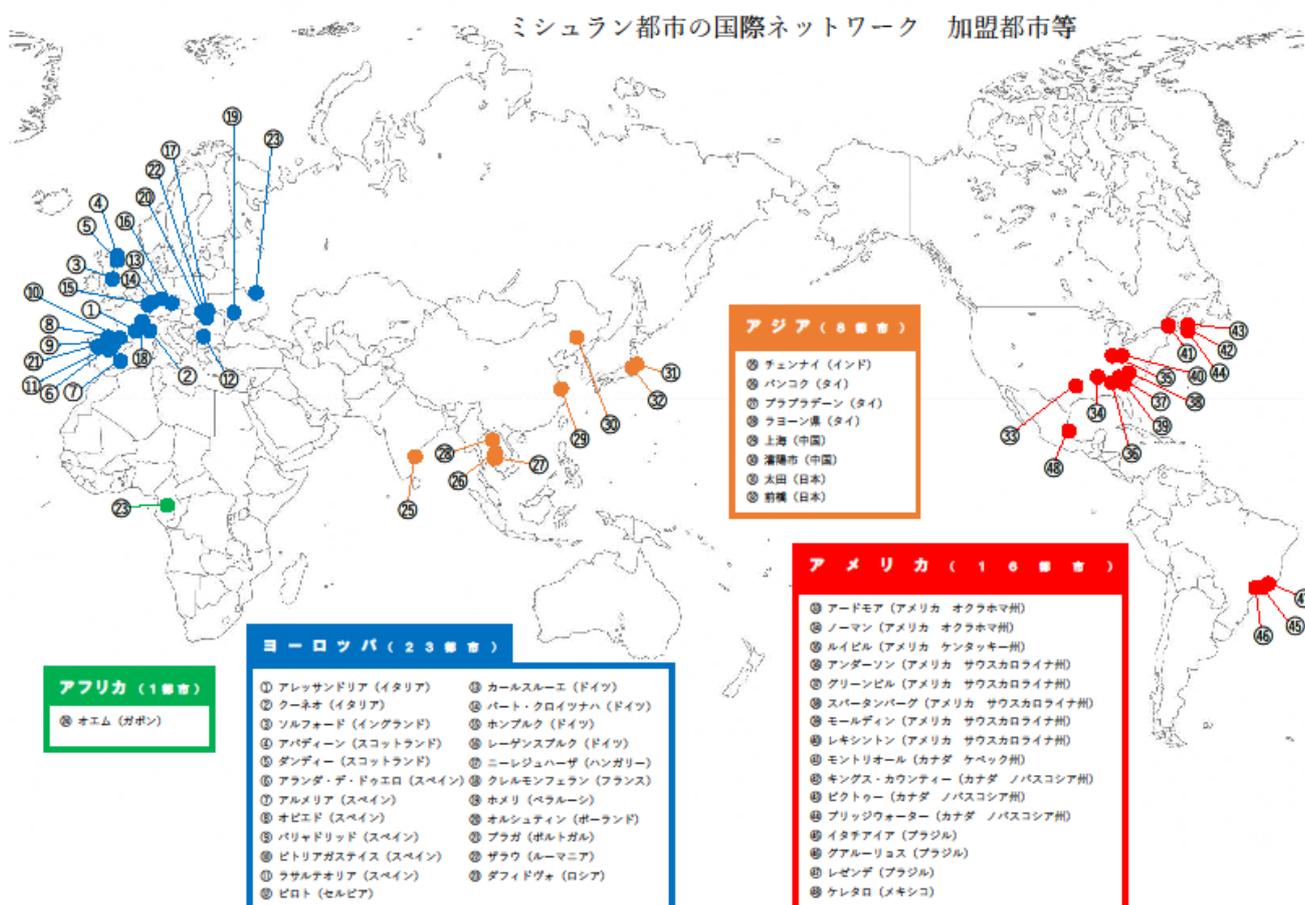
自治体間のパートナーシップや協力関係の発展に貢献し、互いの経験を共有しながら実践的でより良い公的活動を拡散していくこと。

各自治体の経済的・社会的・文化的な背景を尊重しながら持続可能な発展に貢献すること。

(2) 対象国、都市数

20か国 48都市 下図のとおり。

(内訳 アジア：8都市、ヨーロッパ：23都市、アメリカ：16都市、アフリカ：1都市)



(3) 会議開催状況等

2年に一回、国際会議を開催している。

2017年12月 フランス クレルモン＝フェラン市

2019年3月 スペイン ビトリア＝ガステイス市

※この他、毎年、カナダ・モントリオール市でミシュランが開催しているムービングオンサミットの参加案内を受けることができる。

6 クレルモン＝フェラン市の概要

クレルモン＝フェラン市と前橋市の比較

	クレルモン＝フェラン市	前橋市
面積	42.67km ²	311.59km ²
人口	141,569人	334,647人
人口密度	3,318人/km ²	1,074人/km ²
平均日照時間	1,913時間	2,139時間
標高	321m～602m	64m～1,828m
自然	ピュイ・ド・ドーム (市外) 1,464m	赤城山 1,828m
建築物	大聖堂	臨江閣
プロサッカーチーム	クレルモン・フット (仏2部)	サスパクサ群馬 (Jリーグ3部)
産業	ゴム製品製造 (ミシュラン本社)	食料品、金属製品
パリ所要時間	飛行機1時間	新幹線1時間
東京所要時間	自動車4時間	自動車1時間20分
象徴的な山	ピュイ＝ド＝ドーム	

【県名】ピュイ＝ド＝ドーム県

【郡】クレルモン＝フェラン郡

【市長】オリビエ・ビアンキ氏 (2014～)

【文化遺産】

ノートルダム・デュ・ポール大聖堂、クレルモン＝フェラン大聖堂

【姉妹都市】

アバディーン (スコットランド)、サルフォード (イングランド)

レーゲンスブルク (ドイツ)、ホメリ (ベラルーシ)、

オビエド (スペイン)、ブラガ (ポルトガル)、ノーマン (アメリカ)

オイェム (ガボン)



※人口密度が高く都市部が発達している。

7 6月25日の視察・意見交換等の概要

(1) アダップ

CEOのヴィンセント氏から会社、技術、日本進出検討等についての説明があった。

アダップは、ミシュランとファイブスが設立した3Dメタルプリンター加工を主に行う会社で、2006年に設立された。タイヤを生産するためには、複雑な金型が必要で、その製作に多大な時間とコストがかかっていた。3Dメタルプリンターを使うことにより、金型の製作時間やコストを削減することができる。

3Dメタルプリンターの技術は、航空宇宙、自動車、エネルギーなど、様々な業界のニーズに合わせた部品等の作成を展開しようとしている。

日本進出は、重要な検討事項であり、日本を訪れた際は、前橋市の訪問も検討したいということであった。ジェトロ、アダップ及び本市の担当者・担当部署間の連絡、調整等の窓口等を具体的に確認した。

市長から前橋工科大や群馬大学が立地することなどを説明するとともに、ジェトロによる情報提供を要請した。

同行したジェトロ職員によると、フランスの会社は、依頼された仕事を処理する下請け企業的な連携でなく、伴に商品開発や投資などを行うパートナーを求める傾向があり、そのような環境が進出先を判断する一つになる場合があるとのこと。



(2) ラドゥー・ミシュラン研究施設（ミシュランのイノベーション展示）

本施設は、2016年に改築した研究施設で、1,700人の研究者が働いている。1,700人中600人が化学の研究者で、バイオマテリアル（大根やチップ）を使ったタイヤ素材なども研究している。

ミシュランのイノベーションの80%を素材が支えているとのこと。

施設規模450ヘクタールで、タイヤ性能を検査する膨大なテストコースも備えられている。

2016年の研究施設リニューアル時には、フランスの大統領や首相もこの施設を訪れている。

ミシュランのイノベーションの概要は、次のとおりで、持続可能な成長戦略を踏まえて展開されている。

1863年 会社が設立（交換可能な自転車タイヤ）

1890年代前期 自動車用空気入りタイヤ実用化

1949年 世界初の市販ラジアルタイヤ発売 など

現在、耐久性を3倍ほどに伸ばすタイヤ販売している。これに対して、タイヤが売れなくなるのではないかという意見があるが、ラジアルタイヤを販売した際にも、同じ意見があった。タイヤの寿命を延ばすことにより、地球環境の保全を果たすこと、持続可能な成長戦略を実践することが、大きな視点から、社会貢献、継続可能なモビリティ確保、会社が続くことにつながると考えている。

なお、1900年から、タイヤだけでなく快適なドライブ、自動車社会の到来を予期して、ミシュランガイドの作成や地図、道路標識の整備など、総合的な視点、戦略で事業を展開している。

(3) ランチタイムミーティング

市長から英語で、前橋市の紹介を行うとともに、アダップの日本進出検討、赤城ヒルクライムにおける連携検討要請など、意見交換をした。



カフェ等も備えた環境の整った快適な空間の研究施設



ランチタイムミーティング出席者 山本市長（中央）右へ ラドゥー責任者フランシスさん
岡田議員、アダップのテリーさん、林議員、ジェトロ笠原さん、ファイブスのジャンさん

(4) 国立建築大学訪問

山本市長が別紙1のパワーポイント概要等に基づき、英語でプレゼンテーションを行った。将来的な日本との交流を呼びかけた。

大学からは、フランスの大学制度等の説明があった。

(大学側の説明概要)

大学の入学試験は、学科の満点が20点で、この大学の合格者の半分以上が10点以上である。学科の成績が特別に優れているわけではなく1700人以上の希望者全員と面接して、選考している。

4年でマスターになり、建築家の試験を受けられるようになるが、一般的に合格するまでに3～5年かかる。博士課程に進んだ場合、3年で建築家になれる。

この大学の学生数は、655人でファミリー的な雰囲気がある。38%の学生が奨学金を受けている(返還の必要がない)。大学の予算規模は、年間250万ユーロ(約3億1000万円)である。

(山本市長の将来的な交流の呼びかけに対して)地域との環境、交流を大切にしているが、外も見るように言っている。英語とスペイン語を教えている。

マスター課程で大切にしていることは、次の3点である。

- ① 文化遺産を大切にすること。
- ② 持続可能性を大切にすること。
- ③ エンジニアであると同時に建築家はアーティストであること。

今年の2月に就任したディレクターが示した6つの戦略は、次のとおりである。

- ① 田舎性
- ② 環境保全
- ③ 地区再生
- ④ 文化遺産・伝統保全
- ⑤ 1つの建物だけでなく全体を考える
- ⑥ (都市の) 端と中心の研究

(5) ビバーク

州議会の建物に入居している商工会的な団体で、ミシュランほか地元企業が会員になり、新規企業を支援している。行政から独立して活動しているようである。

スタートアップメニューは、未来の農業、工業、モビリー、エネルギーである。IoTを活用した運送装置の企業支援例の説明があった。

フランスでは、企業支援に積極的に取り組んでいるようで、ジェトロ提供の資料（別紙2）においても、企業支援策が示されている。

フランスの商工会議所は、約150存在し、多くは県が設置されるフランス加盟以前から商業活動の中心地に組織されたものであり、国が行政監督を担っているという記述もある。事業活動の範囲が幅広いことが特徴になっている。基本的な団体活動に加え、地域事情に応じて、商業教育、語学学校の運営、道路・橋梁、地方空港、大型倉庫、工業団地などの開発整備や管理運営を行っている。財源は、地方税から職業税に賦課される収入と会議所が管理する施設からの収入とに大半を依存する。

(6) 桜公園視察(外務省長澤事務所長と合流)

外務省長澤在リヨン領事事務所長と合流するとともに、長澤事務所長からこの公園における日本人の交流事業など話を聴取した。

(7) 山本市長、ビアンキ市長及び長澤在リヨン領事事務所長の面談

ア)山本市長

山本市長が、別紙1に基づき英語でプレゼンテーションを行い、前橋市の紹介、将来的な文化や学生の交流などについて話をした。

また、プレゼンテーションに先立ち執務室の都合で両市長及び長澤在リヨン領事事務所長のみで行った会談では、次の点を伝えた。

ミシュランネットワークの中で持続可能性への取組を学びあうこと。

芸術文化（調理、詩など含む）の人材交流等を望むこと。

クレルモン＝フェラン市は桜に関する助言を望むこと。

大学や教育機関における交流を望むこと。 など

イ)ビアンキ市長

山本市長の話を聞いて、文化は違うが同じように改革に挑戦していることが分かった。モビリティ、病院へのアクセス、高齢化などは共通の課題である。

持続可能な社会を形成する取組が大切であり、両方の市でやっている。共通の経験をそれぞれが参考にできるものもあるのではないか。クレルモン＝フェラン市、前橋市はミシュランシティであり、来年、メキシコで会いたい。

フランスにおける外国人のうち、日本人が3番目に多いそうである。人数的にはポルトガルの5万人が最も多く、日本人の数は、それに比べると少ないが、質の高い仕事をしてきている。クレルモン＝フェラン市の桜

公園でも、日本人が様々なイベントを行い、交流を深めている。大切なことである。クレルモン＝フェラン市には、日本人友の会があり、そういうところに前橋市から来てくれて、たいへんうれしく思っている。

市民のモビリティ、文化・詩、教育等の協力を探していきたい。火山もキーワードであり、研究者の交流もできるのではないか。そのうえで、経済的にもつながりをもてればいいのではないか。

同席してくれた長澤在リヨン領事事務所長に感謝するとともに、前橋市とクレルモン＝フェラン市の関係が長続きするといいと思う。

ウ)長澤在リヨン領事事務所長

2018年は、日仏友好160周年の記念すべき年で、文化芸術でいろいろな活動が行われた。皇太子殿下のフランス訪問もあった。

そして、今年はフランス AG というイベントがあり、マクロン大統領が来日する。令和という新しい年に大統領が来日し、そして前橋市長がフランスを訪れ、来年にはクレルモン＝フェラン市長が前橋を訪れることができれば、素晴らしいことである。両市の新しい友情を深めあうことを祈念する。

(8) 日本人協会及びオーベェルニュ国立オーケストラ

クレルモン＝フェラン市で日本語補習校を運営する代表の古賀さん、プラットモコさん、合谷夫妻と面談した。日本語補習校では、日本語で書かれた本を集め図書室を整備しているとのこと。日本に帰るたびに、少しずつ持ち帰ったり、リヨン領事館に勤務経験のある外務省職員の協力を得て、整備しているとのこと。前橋市の図書館で図書整理する際に、協力が可能か検討する旨、伝えた。

オーベェルニュ国立オーケストラは、来年、東京の国際フォーラムでコンサートの予定がある。前橋市でも演奏会を開催したいという申し出があった。

